JAFスポーツWEB

2019 ゴールドカップレース 第3戦［JAF公認No.2019-5029］
サーキットトライアル in オートポリス 2019 Round 2［JAF公認No.2019-5030］

開催日：8月11日　開催場所：オートポリス　格式：準国内／地方　主催：APC［クラブ登録No.公認44001］、㈱オートポリス［団体登録No.加盟44002］

レポート／はた☆なおゆき　フォト／皆越和也、皆田征賢、JAFスポーツ編集部

鈴鹿育ちの女子レーサー下野璃央選手がポールトゥウィン

オートポリス2度目の遠征でスーパーFJを制した下野璃央選手。現役の女子大生だ。

8月11日にオートポリスで「ゴールドカップレース第3戦」が開催された。

今回2レース開催となるAP 86/BRZレースは「デビュー戦なので、緊張していました」と語る古賀正三選手がポールポジションを獲得。しかしレース1では、予選2番手の石川裕剛選手がスタートを決めて前に出ると、古賀選手につけ入る隙を与えず。最後まで背後につかれた状態だったが、「次のレースのこともあるので…」とニヤリと余裕の表情。

続くレース2でも古賀選手がポールながら、またしても石川選手がスタートでトップに立つと、今度は徐々に逃げていき、最後は3秒差の圧勝となった。「今度はすっかり力を解放しました」と石川選手。4連覇に向け、大前進を果たすことになった。2レースともにバトルを繰り広げて3位、4位は村上浩一選手と植田康弘選手。植田選手は今回が初レースだった。

ツーリングカーでは「路面が暑いせいか、思い通りの走りをしてくれませんでした」と語るも石川敏郎選手がポール。スタートからテツ清水選手と下山大雅選手にピタリと食らいつかれ、厳しい決勝となったが、清水選手にスタート違反に対するドライビングスルーが命じられる。

下山選手が徐々に遅れ始め、トップ争いが一騎討ちとなっていたことで、前を追うことに集中していたのか、清水選手は指示を見逃し、ようやくピットに戻ってきた時には、すでに失格の裁定が……。

「僕は(清水選手のペナルティに)気づいていて、最後まであのペースだとタイヤがタレちゃうので、途中からペースを抑えたので。前回、フライングを取られているので、チャレンジせず慎重に行ったのも良かったんでしょう」と石川選手。2位は下山選手が、そして3位は飛田善晴選手が獲得した。

スーパーFJは、鈴鹿をホームとし、オートポリスには2度目の遠征となる、女子大生レーサーの下野璃央選手がポールポジション。「自分としてはまずまずのタイムなんですが、昨日より差を詰められてしまいました。今日は大阪

1. S-FJ表彰台の各選手。2. スーパーFJ3位には浜久保太一選手が入賞。3. S-FJで2位入賞の益田富雄選手。

4. 2連戦となったAP86/BRZは予選ではともに2番手に沈んだ石川裕剛選手が逆転で2連勝を飾った。**5.** VITAは予選から頭一つ抜け出すタイムをマークしていた三浦康司選手が優勝。**6.** 予選から僅差の戦いとなったツーリングカーは石川敏郎選手がポールトゥウィン。**7.** AP86/BRZの古賀正三選手は連続PPを奪うも2戦とも2位にとどまった。**8.** VITAで2位入賞の鬼塚哲生選手。**9.** ツーリングカー2位入賞は下山大雅選手。**10.** CT(サーキットトライアル)・B3で2位入賞の山内照章選手。**11.** CT・B1で2位入賞の田村朋之選手。**12.** CT・B2で2位入賞の久保田徹選手。**13.** CT・B1表彰台の各選手。**14.** CT・B2表彰台の各選手。**15.** CT・B3表彰台の各選手。**16.** AP86/BRZで連続3位獲得の村上浩一選手。**17.** 飛田善晴選手はツーリングカーで3位。**18.** VITAで3位入賞の藤原誠選手。**19.** ツーリングカー表彰台の各選手。**20.** VITA表彰台の各選手。**21.** AP86/BRZ表彰台の各選手。**22.** CT・B3で3位入賞の伊藤啓介選手。

から家族が来てくれているので頑張ります」と下野選手。

一方、コンマ1秒を切るまでに迫ってきたのは、ポイントリーダーの益田富雄選手で、「セクター3でミスっているんですが、それがなければ。でも昨日よりも調子はいいし、バトルできればいんですが」と語っていた。

注目の決勝では、下野選手が好スタートを切り、やや出遅れた益田選手が篠田義仁選手とやり合う間に、オープニングの1周だけでほぼ1秒の差を築いてしまう。その後も逃げていく下野選手に対し、やがて益田選手も単独走行になり、3周目には浜久保太一選手が3番手に。

終盤からはバトルレス状態のまま、周回が重ねられていき、最後は4秒6の差で下野選手が初優勝を飾った。「スタートが決まって、一度もトップを譲らずにゴールできて良かったです。素直に嬉しいですし、自信になります」と下野選手は快心の表情で振り返った。

VITAでは九州のヴィッツ使い、三浦康司選手が「S字でミスしてしまって」目標タイムには届かなかったものの、ポールを獲得し、決勝でも好スタートを切って、後続を寄せつけず。その後方では予選4番手からスタートを決めた、鬼塚哲生選手が2周目の第2ヘアピンで2番手に上がり、そのままポジションをキープした。

最後は9秒差での圧勝にも「今日はタイヤを傷めないよう、タイムを安定させて走るというのがテーマで、それがうまくいって良かったです」と、三浦選手はあくまで謙虚だった。

3クラスで争われたサーキットトライアルは、第1ヒートのトップが伊藤啓介選手だったものの、勝負どころとなった第2ヒートでは「タイヤが終わっちゃったんです」と著しくタイムダウン。逆転してB3クラスのトップは杉尾常勝選手だった。

「前に1台いて、どうしても譲ってくれなかったので、なかなかクリアが取れなかったんですが」と語るも、総合優勝まで獲得した。B1クラスの優勝は柴田柾彦選手で、こちらも「もっといけるかと思ったんですが、最後に詰まってしまったので」と悔しそう。B2クラスの古賀寛之選手は、これが嬉しい初優勝となった。

23. CT・B1クラスは柴田柾彦選手が優勝。**24.** CT・B3優勝の杉尾常勝選手。**25.** CT・B2は古賀寛之選手が優勝。